

ヒロシマ ユネスコ

25周年記念年

結成二十五周年記念事業を展開
「ユネスコ活動奨励賞」新設など

広島ユネスコ協会は、戦後間もない民間ユネスコ運動発祥の潮流の中で発足し、その後の空白期を経て一九七三年（昭和四十八年）六月に再発足、本年結成二十五周年を迎えました。

これを記念して「広島ユネスコ活動奨励賞」「原爆ドームを描く展」（2頁参照）「岩田英憲パンフルート演奏会&記念式典」などの事業を実施します。

広島ユネスコ活動奨励賞

ユネスコは第2次世界大戦の反省に立ち、相互理解を深め、教育・科学・文化・コミュニケーションの分野で国際平和と人類共通の福祉を促進するために創設されたもので、その原点に立ち返る趣旨から二十五周年記念事業として「広島ユネスコ活動奨励賞」を新設しました。広島市は、国際平和文化都市として教育活動、地域の民間活動によって培われた土壌のもと国際的な活動が進んでいます。そこで、現在とりくまれています。

優れた活動を顕彰し、新たな発展を促そうというものです。

実施要項は次のとおり。
 【部門】学校／広島市内の公立私立の小・中学校、高校（学校学年、学級、クラブ単位の児童

結成二十五周年に想う
 会長 信井正行



一昨年十二月、ユネスコ世界遺産委員会は、原爆ドームの世界遺産登録を決定した。

われわれは、直前までその実現を危ぶんだ。正直言って、われは、米政府の思惑を気にする日本政府の外交姿勢に不安を感じていた。

しかし、世界遺産委員会は広島市の原爆ドームと厳島神社の世界遺産登録を決定した。米政府と中国政府は決定直

生徒による団体活動。社会／地域公民館活動、グループ活動

【活動内容】国際理解、国際協力、国際交流分野の継続的活動

【締切り】一九九八年十一月末

【審査会】学識経験者等で構成

【発表】一九九八年十二月

【表彰】部門毎に表彰状等を表彰式（一九九九年一月）で授与

【後援】広島市教育委員会

【応募用紙請求・提出先】広島ユネスコ協会事務局

さないのは人類でなければならぬ。

核実験禁止、核廃絶の呼びかけも被爆市民からではなくて、原爆をつくり、投下した人類の一員としての立場からの訴えがあつてよいのではなからうか。

勿論、被爆者としての切実な生々しい訴えを否定するものではないが。

今後、核爆発が一旦起これば人類は滅亡してしまふのである。

人類滅亡を警告するシンボルが原爆ドームなのである。

今夏、インド・パキスタン両国による核実験が行われた。

両国首脳の主張は旧態依然たる核抑止論であり、核所有大國論である。

対する国連は経済制裁をちらつかせての再開阻止への圧力である。

所詮、政治的思考のくり返し、力対力の応酬に他ならない。

人類破滅、世界終えんの情景を目前にしなから、なんの国家安全保障、ぞと言いたいのである。

かつて国際連盟がそうであつたように国際連合も今のままで

は平和のとりでとはなり得ないのではないだろうか。

人々ひとりひとりの心の中に平和のとりでは築かれなければならないのである。

被爆市民のつくった碑文としてはおかしいのではないかと。

今やまさしく、過ちをくり返

らなければならないのである。

二十五周年記念事業 「原爆ドームを描く」展 千二百人が入場



世界遺産・原爆ドームに関する事業としては第三弾の企画として「ユネスコ世界遺産との対話『原爆ドームを描く』展」山崎理恵子と広島のかどもたち」が、七月二十四日から八月九日まで広島市立中央図書館展示ホールで開かれ、会期中、千二百人が会場を訪れました。

この展示は、広島ユネスコ協会結成二十五周年記念事業として、広島市立中央図書館との共催、広島市教育委員会の後援で開かれたものです。

展示物は、埼玉県から広島市に転居して原爆ドームを油彩で描き続ける山崎理恵子・画家の油絵十三点、園児、小学生、中学生が描いた原爆ドーム写生大会入賞作品四十三点（世界遺産化をすすめる会主催、フラワーフェスティバル実行委員会主催）そして関連図書四十五冊。

山崎画家の作品は、原爆ドームのほかに被爆直後の惨状を人物、小動物を登場させて描いたもの、悲劇を語り継ぐ親子の姿風化するヒロシマなどをテーマに描いた油彩画で構成され、作品毎に表題がついています。

一方、子どもたちの絵は原爆ドームを描いた作品ばかりで、その表現は、生活年齢と被爆体験の継承の度合いによるものなのか、作品毎に異なります。

また、会場では、世界遺産の解説、原爆ドーム年表などの揭示物も展示されました。

「描く」展の初日、開場に先立って行われたテープカットでは主催者、広島市教育委員会、

広島市の文化行政関係者ら約三十人の出席者を前に、広島ユネスコ協会信井正行会長が挨拶し、続いて広島市教育長のメッセージが読まれ、山崎画家の挨拶に続いてテープカットが行われました。

この模様はNHK、広島テレビ放送、中国新聞社、朝日新聞社が取材し、展示作品の紹介と併せてテレビ、新聞を通じて報道されました。

ご挨拶

広島ユネスコ協会の皆様とライフワークとして原爆ドームを描き続けておられる山崎理恵子様のご協力をいただき、「原爆ドーム展」を開催いたしました。

この展示会で、絵をご覧になった人にとつて、原爆ドームが持つ意味や平和について考え、ヒロシマの心を発信し続けるきっかけになったと思っております。

広島ユネスコ協会の会員の皆様や山崎様をはじめ多くの人にお世話になり、ありがとうございました。

広島市立中央図書館
館長 中道紘二

会期中の入場者は、約千二百人。中高年層の入場者が多く、八月六日前後は、広島県外の人、青年層の来場者が目立ちました。

会場に備えられた感想記入ノート（別掲記事参照）には、

会期最終日を翌日に控えた八月八日午後、展示会場は演芸会場に一転、「俄講釈『石に影を灼きつけた男』」が緩急車雲助（久保浩之さん）によって演じられました。

内容は、原爆投下により銀行の玄関の石段に影を残して被爆死した人が、焦土と被爆前の街を、終には広島湾の海中深く彷徨って行く、恨みと鎮魂の物語り。当日、会場には八十人の観客が講釈師の熱演を感銘深く観賞しました。

「原爆ドームを描く展」感想ノートから

- ▼見ていて胸に詰まる絵が多かった。原爆の悲惨な出来事を忘れないように。その上に今の平和があると。子どもたちの絵は楽しそうに描いたのが多くて、今の平和な時代に生まれて良かったと思う。
- ▼幼児の描いた原爆ドームは憎しみ、悲しみ、怒りといった感情よりも、むしろ前向きな希望を抱いた色づかいで新鮮に思えます。（二十六歳。OL）
- ▼原爆に悲しいイメージを持っている私たちと違って、小さい子どもが描く絵は、復活した
- ▼広島を表現していて、とても素晴らしいと思いました。（十四歳、中学生）
- ▼原爆という暗いイメージでいましたが、絵そのものは明るい色を使われています。投下後五十三年、核については永遠に廃絶を訴えていきたい。（五十九歳、主婦）
- ▼自然の流れと人々の思いが原爆ドームの色を作り、変えていくものですね。明るくなったり暗くなったり……（中畝みのり）
- ▼山崎先生の素直な感受性に

感銘を受けました。素直な直感力を持つ子どもたちの絵と合わせ展示された企画者の着眼点にも感服いたします。

▼私も毎年この季節になると原爆ドームの近くに来てスケッチします。細密に描くほど、あの一瞬の苦しみが深く洞察され痛みを共にすることが出来ません。人はどうしてあんなにして殺し合わなくてはならないのか。核廃絶の運動は仮に効果が見えないようでも続けなければなりません。(七十八歳、志水清)

▼原爆の日を迎えて、皆老人はよう生きられた、運が良かったと感謝し、命の限り国家のために尽くします。(八十三歳、呉市・小川房雄)

▼原爆ドームをどのようにとらえるのか、それは人様々でしょうが、やはり、それは多くの人が原爆で亡くなられた、この



にわか舞台となった俄講釈

事実の証としてとらえることと
思います。子どもは、単に写生として絵を描いてるかもしれない。明るい色は気になる。写生

に対して評価はどのようになされるのでしょうか。やはり平和の祈りが原爆の原点だと思えますが。(東広島市、天野弘也)

▼私は一年生の時から毎年、原爆ドームの写生大会で描いています。今日は昨年描いた絵を見に来ました。戦争って恐いなあ、と思いました。(広島市南区、金沢萌)

▼被爆者の母は現在、痴呆になってしまったけど、原爆のことはアリアリと覚えていて、今でも体験談を話してくれます。私の母に限らず、想像も出来ないような恐怖、苦しみを与えた戦争を、原爆を許してはいけません。(広島市東区佐々木恵子)

▼私も十三年に及ぶ戦場とシベリアの重労働で今では戦友も既に天に召されて唯一人になってしまいました。本当に戦争こそ愚かで恐ろしいものはありません。人類から戦争がなくなりま

すよう祈ります。(大阪市、田中俊夫)

▼八年ぶりに広島に来ましたが、これからも世界に対して平和の尊さを訴えていって欲しいと思います。(東京都、稲穂健市)

▼今も被爆者として闘病を続けておられる人がいると知って驚きました。広島はいつまでも平和を訴えていくべきです。

▼五十三年前、広島にげんしばくだんがおとされました。そのせいでたくさんの方が死にました。わたしのおばあちゃんも「川などに死体がかんでいたよ」と教えてくれました。わたしは、みんなつらかったろうなあと思いました。とてもかわいそうだなあと思いました。(広島市安芸区矢野、升田)

▼心の中にある不安、希望、恐れ、怒りを見たような気がします。(T、W)

▼直接自分が被爆したわけ

へあせろべ'98

PEACE LOVE II

「べあせろべ」が十五周年を迎えて開かれます。

当協会は今年も「遊びのコーナー」で参加し、その一角で「世界寺子屋運動」パネルを展示してアピールする計画です。

日時 十月十八日(日)

十時~十八時

会場 広島市中央公園



オープン初日の会場

も身内を原爆で失われたのでもない方がこの様に情熱を傾け、描き続けられるのは、平和を願う心の表れでしょうか。子供達の余りにも明るい、楽しい絵を見て、戦争のむごたらしさ、五

十三年前の出来事を、こんな時代に生まれた子供達に語り継いでいく難しさを感じます。

▼広島は反核を心から世界に訴え続けています。それに共感する人もいれば、アジア侵略は？と反対に怒る人もいます。日本がアジア各国におかした罪は大きいのです。若い私から見れば、インド・パキタンの核は一種の人をおびやかす道具という感じですね。私たちの世代が、祖母、父から原爆の恐さを語りつぎ、世界に訴えていく番かなあと思いました。未来にある光に向かつて生きていきたいと思いました。(十六歳)

世界遺産登録認定 贈呈受ける

ユネスコ世界遺産登録の認定証(写し)が、先に開かれた中国ブロック活動研究会の席上、日本ユネスコ協会連盟村井了理事長から木村進匡副会長(原爆ドームの認定証)、広島県ユ連永井滋郎会長に(原爆ドームと厳島神社の認定証)がそれぞれ渡されました。

ユネスコ国際子どもキャンプ 二百人超す参加者

第三十回子どもキャンプは、八月六日から四日間、広島県立もみの木森林公園で開かれ、北は岩手、南は沖縄から二百人を超える子どもとサポーターが参加して学び、楽しんで閉幕しました。

後援団体として参画した当協会からは、田川哲也さん、松浦慎さんの青年会員が裏方で大活躍。高橋昭博副会長が被爆体験を交えて平和実現への道を講演したほか、内田憲至常任理事が軽トラックを提供するなどキャンプに協力しました。

一九九八年度総会報告

一九九八年度広島ユネスコ協会総会は、五月二十三日（土）午後三時から、広島アンデルセンで開催されました。

冒頭、一九九七年度で退任された伊藤亮三前会長の後任として、理事会で選出された信井正行新会長の就任のあいさつがあり、真の意味でのボランティア活動、レクリエーション活動を進めたいので協力をお願いしたい旨の決意が表明されました。

続いて、信井会長の進行のもと、一九九七年度の事業報告、決算報告について審議がなされ原案どおり承認されました。とくに、この中で、原爆ドームの世界遺産登録を記念して発行し



総会において報告する信井会長（中央）木村副会長（右）、亀井事務局長

た絵はがきについては、増刷を重ね、五千五百部発行、順調に頒布が進んでいること、同じく世界遺産登録を記念して行った講演と朗読劇の夕べについては、役員の絶大なる協力があった、大成功に終わった旨の事務局長報告がありました。

次に、一九九八年度の事業計画・予算の審議に移りました。事業計画の中では、従来の国際交流サロンを、ユネスコ・サロンと改称し、とりあげるジャンルを、科学、歴史、世界情勢などまんべんに考えること、広島ユネスコ協会結成二十五周年記念事業を重点的に実施すること、絵はがきを継続して頒布することなどが提案され、また、予算総額を百六十七万円として計上したい旨の提案がなされ、原案どおり決定されました。

また、専門部会の改組について亀井事務局長から提案があり、つぎのように決定いたしました。

◆教育組織部→教育部会、組織・部会に分ける◆他の部については、それぞれ文化部会、国際部会、平和部会、広報部会と名称変更する。

一九九八年度役員

- ◆名誉会長 平岡敬 ◆顧問 永井滋郎、松原博臣、沖原豊、倉田信雄、加藤朗一、伊東亮三
- ◆会長 信井正行（事務局、広報部会担当） ◆副会長 深崎敏之（国際部会担当、高橋昭博（平和部会担当）、木村進匡（組織部会、教育部会担当）、竹澤臣子（文化部会担当） ◆理事 組織部会 ◆常任理事 ◆松岡盛人、末重文男 ◆理事 ◆中谷美保子、岡平裕次、山崎芳彦（教育部会） ◆常任理事 ◆太鼓矢晋、北川建次、長迫凱郎 ◆理事 ◆藤原隆範、松尾昭彦（文化部会） ◆常任理事 ◆新川貞之、山崎克洋、米山幸夫 ◆理事 ◆光田鈿、藤井孝行、井尾義信（国際部会） ◆常任理事 ◆藤井正一、永田龍男 ◆理事 ◆奥中正之、西村憲治（平和部会） ◆常任理事 ◆大和喜久男、内田憲至、平岡豊

新役員紹介

理事 井尾義信

ユネスコ世界遺産に、原爆ドーム、巖島神社の登録決定！の第一報を、マイクを通じて電波に乗せ、広く伝えた時の興奮をつい、きのうのように思い出しています。待ちに待った嬉しいニュースでした。

皆様、どうぞよろしくご指導の程、お願いいたします。

常任理事 平田昭男

広島市役所に三十八年間在籍しており、そのうち社会教育施設長六年（石内公民館、馬木公民館）を経て、このたび牛田公民館長に就任しました。

早速当協会に入会させていただき、さらに理事にご推挙いただいた、恐縮しております。本会は、その趣旨、活動年数、活動内容、実績等からして、会員数や市からの助成金が少く、活動拠点となる事務局も限定されておられ、事務局として十分な力が発揮できないように思われます。今後これらの課題が解決し、さらに事務局に常駐員が配置され、会員同士がいつでも出入り・交流が図られる体制の整備を切望すると同時に、その一翼を担えたらと思っています。

◆理事 ◆中山修一、木原亮（広報部会） ◆常任理事 ◆古田碩永、由田千鶴子、山本隆信 ◆理事 ◆沖本博（事務局） ◆事務局長 ◆亀井章 ◆常任理事 ◆上橋穂

韶、平田昭男 ◆理事 ◆国田繁、佐々木肇 ◆監事 ◆本家正文、水野文隆 （敬称略）

（注）印のある理事は、各部会の部会長。傍線は新任。

ユネスコサロン 上半期報告

◆第七十九回

四月二十五日(土) 午後一時
半～三時半

「アイスランドにおける原爆
ドーム油絵展」

講師Ⅱ画家・山崎理恵子氏
会場Ⅱ広島アンデルセン

埼玉県草加市から広島市に通
い原爆ドームを描き続ける山崎
さんが、北欧アイスランドで原
爆ドームの絵の個展を開いた体
験をもとに、ヒロシマへの思い、
国際交流を通した平和実現への
決意を語ってくれました。また、
山崎さんの最新の詩集「ヒロシ

マの鳩」の一部を自ら読まれ、
参会者に強い感銘を与えられま
した。

◆第八十回

五月二十三日(土) 午後一時
～三時

「国際交流とおばあさんたちの心」
講師Ⅱコーラスグループ・ト
ワエモア指導者・石橋尚子氏

会場Ⅱ広島アンデルセン
高齢者ばかりのコーラスグ
ループを永年にわたり指導して
こられた石橋さんが、グルーブ
を指導するうえで、苦労話、人
間同士のつながり、さらには、
ハワイへ親善使節として演奏旅
行されたときの模様を語られま
した。国際交流の楽しさと意義
を卓越した話術で語りかけられ

感銘をうけた参加者の中には、
涙を流しながら聴き入っておら
れる方も多くありました。

◆六月二十日(土) 午後三時～

五時
「インド・パキスタンの核対
立と広島への役割」

講師Ⅱ中国新聞社編集局編集
委員・田城明氏

会場Ⅱ広島平和記念資料館東館
今回は、財団法人広島平和文
化センターも主催者の一人とし
て参画していただき、聴衆の中
には、広島への平和運動を理論的
に、また実践の中で指導してお
られる方々も多数参加され、い
つものユネスコサロンとは違っ
て熱気を感じられる会でした。
世界の核廃絶の願いをよそ
に、インド・パキスタンが核実
験を強行しました。これらの背
景にあるもの、インド、パキス
タンのカシミール問題にまつわ
るせめぎあいなどを紹介され、
ヒロシマの果す役割を、ヒロシ
マを一貫して追われる記者の報
道現場からの生々しい報告とい
う形で、明解に解説されまし
た。

運動への重要な命題を投げかけ
られた会でした。

世界遺産パネル 公民館巡回展

平成七年十二月に広島市の原爆
ドームと宮島(厳島神社)がユ
ネスコ世界遺産として登録され
ました。

以来、世界遺産に対する市民
の関心は非常に高まってきてい
ます。
そうした折、日本ユネスコ協
会連盟から写真パネルが発行さ
れ、当協会が購入しました。

これを機に、広く市民へ公開
して紹介し、理解いただく方策
を検討した結果、まず広島市の
社会教育施設を管理運営する(財
)広島市ひと・まちネットワー
ク事務局と区調整公民館長に世界
遺産写真パネルの巡回展構想に
ついて相談したところ、快く協力
の承諾を得、全区の公民館で開
催する運びとなりました。

三月一日から東区の牛田公民
館を皮切りに中区・安佐北区と
すでに巡回展を終え、現在安佐
南区安東公民館で展示会を開催
中です。

巡回展は大変好評で公民館長
の意見としては「来館者の関心
は予想以上に高く、多くの方々

が熱心に見ておられる。パネル
の枚数が少なく、写真が鮮明さ
にやや欠けているのは残念だ。
公民館で講座を開催したいので
関係資料を具備してほしい」と
いう声がありました。

今後の開催日程は次のとおり
予定しています。
安佐南区(8/24～10/31)・
佐伯区(11/2～12/5)・西区
(12/7～1/30)・南区(2/1
～3/29)・東区(4/5～4/
10)・安芸区(4/12～5/15)

世界寺小屋運動 パネル購入

広島ユネスコ協会では、この
ほど、世界寺小屋運動展示用パ
ネル「文字を識って広がる世界
」ベトナム編・すべての人に教
育を」を発行元の(社)日本ユネ
スコ協会連盟から購入しました。

世界の非識字者の状況、寺小屋
運動の内容、識字教育の意義な
どについて、ベトナムに焦点を
あてながら、分かりやすい文章、
図、写真など二十枚のパネルか
らなっています。

当協会では、これを広く市民
に紹介し、識字教育の大切さを
訴えることとしています。活用
をお願いします。

当面、十月十八日に中央公園
一帯で開催される「あせろべ
98」で展示する予定です。

ユネスコ・サロン現地講座

「世界遺産・厳島神社」

広島県に存在する二つの世界遺産のひとつ世界
遺産・厳島神社についての認識は十分とは言えま
せん。

そこで、厳島神社が有する価値と意義について
学ぶ現地講座を開催します。会場は厳島神社社殿
内の朝座屋(国重要文化財)という恵まれた舞台
です。広島市を離れて開催するのは初めての試み
で、多くの会員のご参加をお願いします。

日 時/10月25日(日) 午後2時～
会 場/厳島神社内「朝座屋」
演 題/「厳島神社の価値と魅力」(仮)
(参拝、見学)
講 師/厳島神社 野坂元臣・権宮司
備 考/会員には後日ご案内します
友人、知人をお誘いください。

次に、核戦争が起きるとすれ
ば、インド・パキスタンの間に
起きるであろうと話された氏の
言葉は、衝撃的であり、これか
らの市民の平和実現へ向けての

ユネスコ松本大会信濃の旅

常務理事 藤井正一

「二十一世紀に継承する豊かな自然環境」イン松本をテーマにして新緑が輝く信濃の地で一九九八年六月六日（於 松本文化会館大ホール）第五十四回日本ユネスコ運動全国大会が開催された。広島ユネスコ協会から倉田信雄顧問ご夫妻、亀井章事務局長と私が参加した。

そして、身の丈からの運動を始めていくべき」となった。今回の大会は来年六月に岡山市で開催されることが発表された。

そば屋で、私達と会津ユネスコ協会からの参加者との交流も楽しいものであった。

参加して感じたことは私達の協会からも数多くの会員が参加し、情報交換をし、交流を深め、組織として、また、個人としてもふれあいネットワークを広げていくことが重要であると感じた。

オープニング・コンサートはスズキ・メソッドとしてヴァイオリンの英才教育で有名な才能教育研究会の子ども達の演奏で幕開けした。ついで、文部大臣代理として野坂審議官は「二十

一世紀に人類が生き延びていくには、「愛と参加」〔平和友好〕〔自然との共生〕がキーワードになる」と挨拶した。

基調講演でフランソワーズ・モレシャン講師は「自然の威厳に敬意を表して私達は自然と協調して積極的に生きていくことが大切である」と結んだ。

シンポジウム「二十一世紀・豊かな自然環境との共生」のテーマで五パネリストがそれぞれ

の立場から意見を述べ、まとめは「自然からの利益を受けているので自然に返していく努力

況に翻弄された五十年の歴史を述べ、これからの識字運動、世界遺産保護の意義が訴えられた。西洋文化ばかりでなく、東洋文化などを尊重した歴史認識は、これからの活動から得られる。亀井事務局長がパネラーとして

中国ブロック活動 研究大会報告

副会長 木村進匡

去る八月二十九日・三十日に鳥取市白兔会館で約一〇〇人が集まって開かれた。広島県ユ連から永井会長、広島ユ協から竹澤、木村副会長と亀井事務局長、東広島ユ協から三人が参加し、熱心に聴講し、討議に参加した。村井了日ユ協理事長の基調講演では、一九四七年の創設から、国連の冷戦構造や米国などのユネスコからの脱退などの国際状

実務担当者研修会報告

事務局長 亀井章

全国実務者研修会が、今年も東日本、西日本に分かれて七月の三日間、行われ、奈良の西日本会場に参加した。会では「活発で魅力あるユネスコ運動」の提起をもとに各協会の活動状況と課題が活発にやりとりされ、各地の特性を活かした活動は参考になった。世界寺子屋運動では欲する側の実情に即した支援のあり方が実例で示された。

日誌

て参加した全体討論では、地域の熱気が感じられた。村田昌志文部省ユネスコ国内委員は、民間ユネスコ活動は「ユネスコ活動に関する法律」で、地方公共団体は助言、援助を与えることが決められている等と述べた。来年は島根。

〔四月〕

八日 副会長会議

十三日 二十五周年企画委員会

二五日 理事会

二六日 東広島ユ協会結成二十周年行事／永井顧問、亀井事務局長出席。

〔五月〕

二二日 二十五周年企画委員会

一三日 総会

〔六月〕

三日 二十五周年企画委員会

六日 全国大会（長野松本）

／倉田顧問夫妻、藤井正一常任理事、亀井事務局長出席

十三日 二十五周年企画委員会

〔七月〕

一日 平和部会（読売新聞アンケート審議）

三日 実務者研修会（奈良）

五日 亀井事務局長出席

第8回ユネスコ・サロン

日時 9月19日(出) 13時半～
会場 広島アンデルセン (中区本通り)
テーマ 上海支局長が見た中国の素顔
講師 柏原 清純氏 (JNN上海支局長を終え、今春、帰国。RCC報道デスク)
会費 千円 (茶代含む)

二四日 理事会
二七日 世界音楽祭実行委
／八月九日まで）
亀井事務局長出席

〔八月〕

六日 国際子どもキャンプ (もみの木森林公園) 高橋副会長、講演

二六日 広報部会

十九日 理事会

二十日 ヒロシマ・ユネスコ

※「ユネスコ・サロン」は省略

ユネスコ・パンフレット ご利用下さい

- ① 民間ユネスコ運動
 - ② ユネスコ世界遺産
 - ③ 世界寺小屋運動 (識字運動)
- 以上三種のパンフレットを備えています。
ご利用の際は事務局へ。